

令和3年度

石巻市教育委員会の活動状況に関する

# 点検及び評価報告書

(令和2年度実績)

令和3年7月

石巻市教育委員会



# 令和3年度 石巻市教育委員会の活動状況に関する 点検及び評価の実施について

## 1 事業の概要及び目的

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条において、「教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。」とあり、実施に当たっては、「教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るもの」と規定されております。

教育委員会の活動状況に関する点検及び評価報告書を公表することにより、市民に対する教育行政の説明責任を果たすとともに、適正かつ効率的な教育行政の運営に資することを目的とします。

## 2 根拠法令

- 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

- 石巻市教育委員会の活動状況に関する点検及び評価実施要綱（平成20年教育委員会訓令第7号）

## 3 令和3年度 点検評価実施内容について

### (1) 点検・評価の対象事業について

令和2年度に実施した「石巻市教育振興基本計画実施計画」の掲載事業のうち、将来に渡り長期的に継続していくべき事業、子どもの安全・安心のため重点的に取り組むべき事業として、学校教育分野で9事業、社会教育・保健体育分野で3事業の合計12事業を選定しました。

### (2) 点検・評価の方法について

選定した事業について事業調査票を作成し、令和2年度における実施状況及び成果の自己点検・評価を行い、この結果を基に学識経験者からの意見聴取を実施し、本報告書を取りまとめました。

本報告書については、市議会第3回定例会に提出するとともに、市ホームページに掲載し、公表いたします。

**令和3年度 石巻市教育委員会の活動状況に関する  
点検及び評価 対象事業一覧**

番号	担当課	事業名
1	学校教育課	石巻子どもの未来づくり事業
2	学校教育課	サイエンスラボ事業
3	学校教育課	「心の教育」推進事業（いじめ、暴力行為の防止）
4	学校教育課	心のケア充実事業（震災心のサポート事業）
5	学校教育課	国際理解教育推進事業
6	学校教育課	特別支援教育支援員配置事業
7	学校教育課	適応指導教室運営事業
8	学校教育課	桜坂高等学校の魅力ある学校づくり事業
9	学校安全推進課	学校防災推進事業
10	生涯学習課	協働教育推進事業
11	体育振興課	スポーツ振興事業
12	図書館	読書環境整備事業

## 令和3年度 石巻市教育委員会の活動状況に関する 点検及び評価に係る意見聴取会

1 開催日時 令和3年6月25日（金） 午後1時30分開会

2 開催場所 本庁舎6階 議会第1・2委員会室

3 学識経験者 3名

氏 名	役 職 等
有見正敏氏	石巻専修大学人間学部人間教育学科特任教授
鍵頼信氏	元石巻市立二俣小学校校長
木村あけみ氏	石巻市女性活躍推進会議委員

4 意見聴取会の進め方

番号	内 容
1	・意見聴取会手順の確認 進行手順について事務局より説明
2	・事業内容の説明 「令和3年度（令和2年度事業対象）教育委員会の活動状況に関する点検及び評価資料」の事業調査票について ① 事業目的、事業効果及び現状と課題 ②実施状況及び評価（CHECK）③課題・改善（ACTION）の順に担当課から説明
3	・質疑応答 学識経験者から実施状況等について質問を受け、担当課より回答
4	・学識経験者からの意見聴取
※ 1事業ごとに番号2～4を繰り返し行う	
5	・学識経験者から全体を通しての総括的意見を聴取
6	・学識経験者の意見の反映 意見を付した報告書をまとめ、教育委員会において審議

## 5 学識経験者からの意見

### ○ 総括的意見について

有 見 正 敏 氏

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が進む中でのスタートとなりました。事業実施するに当たっては、これまでに経験したことがない対応を迫られながら行ってきたことと思います。

教育委員会のリーダーシップのもと、教育委員会各課、学校、地域と連携し、教職員が一丸となって感染症対策の徹底と、各種事業の実施に向け、全力に取り組まれたことに感謝と敬意を申し上げます。

活動や成果の評価、予算の面からいくつか意見を述べたいと思います。まずは、評価から感じたことです。

学校教育分野の9事業、社会教育・保健体育分野での3事業の合計12事業の中で、総合評価でAが3事業、Bが4事業、Cが5事業という結果となりました。

その中で評価Cの3つの事業、桜坂高等学校の魅力ある学校づくり事業、スポーツ振興事業、読書環境整備事業は、感染拡大防止の観点から、中止や変更を余儀なくされることとなりました。

しかしながら、市民スポーツフェスタに見られるように、感染対策を行った上で実施するなど、工夫した対応が見られ、参考にすべき取組であると思います。コロナ禍にあって、今後事業実施する場合は、代替案も想定して取り組む必要があると思います。

総合評価Aのサイエンスラボ事業、学校防災推進事業、協働教育推進事業は、石巻市教育振興基本計画策定以来、毎年充実した事業となっています。今後も事業の楽しさ、子どもの安全、地域と連携した教育が、ますます展開されるよう期待します。

次に、予算面についてです。サイエンスラボ事業や、協働教育推進事業は、昨年度より予算が少ない状況にあっても、総合評価Aとなっています。これは、教師の指導力や、地域ボランティアの協力によるところが大きな要因ではないかと思います。

しかし、それらの要因だけでは充実した指導ができない事業があることが調査票から見る事ができます。小学校の英語改革に伴う外国語指導助手の配置、発達障害の特性を示す児童生徒の増加に伴い、その支援を行う特別支援教育支援員、「けやき教室」通所児童生徒数の増加に対する人員の確保、この3つの事業に係る人員の確保は、外国語教育の充実、特別支援教育の充実、不登校児童生徒対策の充実の面から強くお願いしたいと思います。

最後になりますが、今後も教育委員会、学校、地域が連携して、「安全安心のための学校づくり」、「行きたくなる学校づくり」のために取り組んでください。そして、市民への説明責任を果たすとともに、信頼される教育行政の推進に更に努めてほしいと思います。

鍵 頼 信 氏

コロナ禍において、様々な活動の制限、中止など苦労したことと思います。それでも、成果指標が昨年度を上回っている事業があります。

中でも、石巻子どもの未来づくり事業、サイエンスラボ事業、学校防災推進事業、協働教育推進事業は、高い達成率を続けています。このことは、教育委員会、学校、地域との連携が、順調に進んでいるからだと思います。

どの事業も昨年度の事業をそのまま継続ではなく、昨年の反省を受け、改善が図られている点が素晴らしいと思います。コロナ禍で活動が制限される中での取組は、苦労があったことと思います。今後の児童生徒のために、工夫改善を図っていただきたいと思います。

強く要望したい点について、二点述べさせていただきます。

一点目は、桜坂高等学校の魅力ある学校づくり事業についてです。桜坂高等学校では、SDGsに取り組んでいると聞き、大変良い取組だと思いますので、地域の方々、商店街の方々、行政の方々、近隣の小中学生と、SDGsに介した交流を行ってみてはと思います。直接対面でなくても、リモートやいろいろなかたちで感染対策ができるので、そのような活動を通して、桜坂高等学校の魅力が伝わっていくのではと思います。

二点目は、読書環境整備事業です。コロナ禍で難しい面もありますが、もっと児童生徒が本に触れる機会を作っていただきたいと思います。街中に図書館があれば、週休日や長期休業中でも多くの本に触れることができると思います。自分の人生、自分で考えられる児童生徒を育てていくためには、たくさんの本に触れ読み込むことと、本を通していろいろな人と本の中で触れ合いながら、本の中で体験を積み重ねていくことも大切ではないかと思います。

最後になりますが、児童生徒にとって学ぶ楽しさを経験させるだけでなく、人間関係、これは児童生徒同士、それから児童生徒と教師のような、より良い関係づくりにも取り組んでいただきたいと思います。

木 村 あ け み 氏

新型コロナウイルス感染症の影響がここまで長引くことを誰もが予想しておらず、予定していた事業の実施を行えずに歯がゆい思いをされたかと思いますが、そのような状況の中でも教育委員会、学校、地域ができる限りのことを考え、知恵を出し合い工夫し連携して取り組んでくださいましたことに、心から感謝申し上げます。

しかし、どうしても児童生徒の、その学年・時期にこそ必要とされる体験学習や課外授業が、軒並み自粛や中止になったことでの影響が危惧されます。いつの時代も想定外なことが起こるものですが、スピード感をもって改善に取り組み、代替事業例のように年度内でも柔軟な対応と決断で、子どもたちの貴重な経験や学ぶ機会を失うことがないようにお願いします。

また、長期化した新型コロナウイルス感染症によって、事業の運営に当たっては万全の感染予防対策に日々取り組んでいただいていると思いますが、中には実施するにあたり学校、家庭、地域において、これまでにない新たな取組を迫られる事業もあるかと思います。そのようなときにも、教育委員会が率先して行政の枠を超え、情報をもっている企業や団体、NPO等に忌憚なく声をかけ相談することで、より地域との関わりを持ち、地域全体で子どもたちが安心して学べる学習環境と成長を見守り、応援する社会になるようお力をいただきたいと思います。

## ○ 事業ごとの意見について

点検及び評価の対象事業ごとに記載



## 教育委員会の活動状況に関する点検及び評価調査票

番 号	1	事業名	石巻子どもの未来づくり事業				
石巻市教育振興基本計画	施策目標	1 社会を生き抜く力の養成	1 社会を生き抜く力の養成				
	基本施策	1 確かな学力の育成	1 確かな学力の育成				
	施策の展開	1 基礎・基本の確実な定着	3 学習習慣の定着				
【他の計画における位置づけ】							
総合計画	基本目標	個性と創造性豊かな未来の担い手をはぐくむまち					
	基本施策	「生きる力」を持つ子どもたちを育成する					
	施策の展開	児童生徒の豊かな心と体、確かな学力をはぐくむ					
	事業名	石巻・子どもの未来づくり事業					
復興計画	施策大綱						
	節						
	細節						
	事業名						
担当課	学校教育課	事業期間	H21	～	R2	摘要	
事業目的							
児童生徒に夢や希望を持たせ、未来を生きるために必要な確かな学力を身に付けさせるため、教師の指導力の向上、児童生徒の学習習慣の育成、志を高める取組の視点から、推進地区ごとに小・中学校が連携して本事業を実践する。							
事業効果							
教師の指導力が向上し、また学校と家庭が連携した取組をすることにより、石巻市内の児童生徒の家庭学習習慣が定着し、学力の向上につながる。							
現状と課題							
学力を向上させるためには、各地区の学力向上推進実践校で実施する小・中学校が連携した授業研究の成果を、各地区の小・中学校に波及させていくことが必要である。また、確かな学力の基盤となる生活習慣形成のために、小・中学校が接続し、学校と家庭が連携して家庭学習の習慣化の啓発を図ることが求められる。さらに、教員の指導力向上を図る研修会等の取組が重要である。							
事務事業の概要			年度別事業計画				
			H29	H30	R元	R2	R3
「子どもの未来づくりフォーラム」「学力向上に関わる講演会」の実施			実施			→	
学力向上推進地区実践校における教員の指導力の向上、児童生徒の学習習慣の形成、小・中連携による教育環境基盤の充実等の実践			実践			→	
学習指導の改善を図る研修会の実施			実施			→	
リーフレットの配布			実施			→	
指 標 名		単 位	H29目標値	H30目標値	R元目標値	R2目標値	R3目標値
活動指標	学力向上推進地区における授業公開の実施校	校	53	52	52	52	—
成果指標	家で授業の予習・復習を継続して行っている児童生徒の割合	%	80	80	80	80	—

実施状況及び評価(CHECK)

令和2年度の事業実施状況	<p>1 「子どもの未来づくりフォーラム」については、代替事業として学校自慢新聞の作成を実施した。「子どもの未来づくり講演会・実践報告会」を1回実施した。</p> <p>2 子どもの未来づくり推進地区・実践校の取組状況や成果を「事業報告書・実践事例集」にまとめて活用した。</p> <p>3 「学習指導の改善を図る研修会」は年6回実施した。</p> <p>4 リーフレット「5つのトライ」を市内全小・中学生に配布し、活用した。</p>
--------------	---

<p>目標の達成状況</p> <p>※評価は下記の「評価基準」により記載</p>	活動指標	指標名	学力向上推進地区における授業公開の実施校						評価
			単位	H29	H30	R元	R2	R3	
		目標値	校	53	52	52	52		
		実績	校	31	30	45	21		
		達成率	%	58.5	57.7	86.5	40.4		
	成果指標	指標名	家で授業の予習・復習を継続して行っている児童生徒の割合						評価
			単位	H29	H30	R元	R2	R3	
		目標値	%	80	80	80	80		
		実績	%	92	92	93	94		
		達成率	%	115.0	115.0	116.3	117.5		

<p>【評価基準】 達成率が100%以上 ……A 達成率が80%以上100%未満 ……B</p> <p>達成率が60%以上80%未満 ……C 達成率が40%以上60%未満 ……D</p> <p>達成率が40%未満 ……E 事業を実施できなかった ……F</p>	総合評価
	B

取組の成果及び評価の理由	<p>学力向上推進地区における授業公開は、臨時休校や新型コロナウイルス感染症蔓延防止の観点から自粛した学校が多かった。予習・復習の習慣化は、全ての地区が小中連携の観点で9年間を見通して取り組んでいる。そのことが児童生徒の高い割合で家庭学習に取り組んでいるというアンケート結果に結びついていると捉え、総合評価を「B」とした。</p>
--------------	---

学識経験者からの意見	<p><b>【有見正敏氏】</b> 小中学校が連携しての学力向上、教師の指導力向上など、授業公開することの意義は大きいものがあります。臨時休業や新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、公開した学校が半分以下となりましたが、時期や人数制限などを考慮して実施することもできたものと思います。年度を追うごとに家庭での授業の予習復習を行っている児童生徒が増えている状況は、各地区の連携の大きな成果であると評価できます。今後も学校と家庭が連携した具体的な取組を期待します。</p> <p><b>【鍵頼信氏】</b> コロナ禍で授業公開が減ったのは残念ですが、これは仕方がないことですが、そのような中でも、成果指数が昨年よりもわずかに上がったという事は、素晴らしいと思います。やはり、人間関係がきちっとできている学校は、学力向上につながっていると思います。また、このような状況だからこそ、家庭学習の大切さが求められると思います。石巻市教育委員会の指導の下、更に家庭学習の習慣化への啓発をお願いします。また、各小中学校の連携も強化も進めていただきたい。</p>
------------	--

	<p>【木村あけみ氏】  実績の数字を見まして、コロナ感染症の影響が大きかったということを見て取れました。その中で学校自慢新聞を代替事業にした取組は評価します。臨時休校や他校との交流しながらの授業公開も自粛など、事業としては難しい年だったと思いますが、校長会でプレゼンテーションを実施したり、各学校との情報共有もされているようなので、次年度は令和2年度のできなかったことを改善し、引き続き柔軟な対応で取り組んでいただきたい。</p>						
<b>課題・改善(ACTION)</b>							
事業を進める上での課題	学校と家庭、小中連携による取組をより一層推進する。感染症対策のため、「学習指導の改善を図る研修会」及び「子どもの未来づくりフォーラム」は計画の変更を余儀なくされるので、代替案で実施した。						
今後の対応方針	次年度以降は事業内容を変更する予定であるが、「学習指導の改善を図る研修会」及び「未来づくりフォーラム」において効果のあった実践や取組を、市内小・中学校に周知し、事業について更に啓発を図る必要がある。						
令和3年度の見込み	新規 継続(拡充・縮小) 休止 廃止 <u>期間満了による終了</u>						
事業費(決算額)	年度	H29	H30	R元	R2	R3	
	金額(千円)	4,585	4,533	4,797	2,487	—	



## 教育委員会の活動状況に関する点検及び評価調査票

番 号	2	事業名	サイエンスラボ事業				
石巻市教育振興基本計画	施策目標	1 社会を生き抜く力の養成	1 社会を生き抜く力の養成				
	基本施策	1 確かな学力の育成	1 確かな学力の育成				
	施策の展開	2 学習意欲の向上	4 指導方法の工夫・改善				
【他の計画における位置づけ】							
総合計画	基本目標	個性と創造性豊かな未来の担い手をはぐくむまち					
	基本施策	新たな時代を創造する人材を育成する					
	施策の展開	広い視野を持つ人材をはぐくむ					
	事業名	サイエンスラボ事業					
復興計画	施策大綱						
	節						
	細節						
	事業名						
担当課	学校教育課	事業期間	H28	～	摘要		
事業目的							
児童生徒が科学への興味・関心をもち、問題解決の力や自然を愛する心情を育てるとともに、教員の理科指導力の向上をとおして、石巻市の理科教育の充実を図る。							
事業効果							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な自然と関わりながら、科学や自然のおもしろさを感じ取らせることができる。</li> <li>・自ら学ぶ意欲、科学的な思考力の向上が図られ、学力の向上が期待できる。</li> <li>・教師の理科指導の不安が解消され、理科教育の充実が図られる。</li> </ul>							
現状と課題							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・創造性豊かな人材育成のために、自然に親しみ、科学的思考力を高めることが必要である。</li> <li>・小・中学生の理科離れが進行している状況が見られる。</li> <li>・理科指導に関する教員への支援、相談体制の確立、理科指導力の向上策が急務である。</li> </ul>							
事務事業の概要		年度別事業計画					
		H29	H30	R元	R2	R3	
科学巡回教室、親と子の科学教室の実施		実施				→	
教材・教具の開発及び教員への提供		実施				→	
学校・教員に対する相談活動・研修会の実施		実施				→	
企業や研究機関との連携		実施				→	
指 標 名		単 位	H29目標値	H30目標値	R元目標値	R2目標値	R3目標値
活動指標	科学巡回教室の開催回数	回	40	40	40	40	40
成果指標	授業が「分かる」、「だいたい分かる」と答えた児童生徒の割合 【(小学生の割合+中学生の割合) / 2】	%	85	85	85	85	85

実施状況及び評価(CHECK)

令和2年度の事業実施状況		<p>1 科学巡回教室は、「原子・分子の学習」「宇宙の学習」「科学実験」「ものづくり」等のプログラムで、22小学校、2中学校、3幼稚園で実施した。</p> <p>2 学校・教員に対する相談活動は、科学巡回教室の際に情報交換を行うとともに、夏季休業に開催した研修会では、すぐに授業で使えて子どもたちが喜ぶことをテーマにした体験講座を実施した。</p> <p>3 「まちなか実験室」と連携し、3小学校において科学イベントを実施した。</p> <p>4 けやき教室や公民館行事等でも科学イベントを実施した。</p> <p>5 企業や研究機関と連携を図り、LED工作教室を実施した。</p>							
目標の達成状況  ※評価は下記の「評価基準」により記載	活動指標	指標名	科学巡回教室の開催回数						評価
			単位	H29	H30	R元	R2	R3	
		目標値	回	40	40	40	40	40	
		実績	回	42	45	41	39		
		達成率	%	105.0	112.5	102.5	97.5		
	成果指標	指標名	授業が「分かる」「だいたい分かる」と答えた児童生徒の割合。【(小学生の割合+中学生の割合) / 2】						評価
			単位	H29	H30	R元	R2	R3	
		目標値	%	85	85	85	85	85	
		実績	%	88	89	88	97.4		
		達成率	%	103.5	104.7	103.5	114.6		
【評価基準】 達成率が100%以上 ……A 達成率が80%以上100%未満 ……B 達成率が60%以上80%未満 ……C 達成率が40%以上60%未満 ……D 達成率が40%未満 ……E 事業を実施できなかった ……F							総合評価		
							A		
取組の成果及び評価の理由		小学校に加え、中学校、幼稚園についても幅広く科学巡回教室を開催した。楽しく分かりやすい授業により、受講した児童生徒からは楽しさ・理解度ともに高評価を得ている。夏季休業に開催した教員向け理科研修会は教員の理科指導力の向上の一助となっている。							
学識経験者からの意見		<p>【有見正敏氏】 理科離れが叫ばれている中、科学巡回教室はその一助となっていると思います。プログラムも充実しており、教職員にとっても楽しい理科の指導がどうあればよいのか、学習意欲の喚起や指導法など、大変良い研修の場となっていることは高く評価できます。今後、巡回教室の開催数を増やして、理科教育の充実を更に図っていただきたい。</p> <p>【鍵頼信氏】 大変充実した取組となっており、教員向けの理科研修会も教員の指導力向上につながっていると思いますし、そのことが児童生徒に良い影響を与えていると思います。今後も、まちなか実験教室との連携、科学イベントの実施、企業との連携を進めていただきたい。</p> <p>【木村あけみ氏】 科学巡回教室や科学イベントなど、感染症対策を取りながら実施したことは、高く評価します。また、理科の実験では、民間企業との連携も活用していただくようお願いします。特に、石巻市の水産加工や菓子も含めた食品製造業界の技術で、例えば、商品にするために正確な分量での調味料作りから完成までの変化なども、ものづくりの面白さを体験しながら学ぶ楽しさにつながりますので、今後は地域産業と連携し、幅広くプログラムの充実を図っていただきたい。</p>							

課題・改善(ACTION)

事業を進める上での課題	学校や児童生徒から継続を望む声が寄せられているため、年齢層に合わせたプログラムの充実を図ること。						
今後の対応方針	科学巡回教室の開催校の拡大とプログラムの充実を図る。						
令和3年度の見込み	新規 <u>継続</u> (拡充・縮小) 休止 廃止 期間満了による終了						
事業費 (決算額)	年 度	H29	H30	R元	R2	R3	
	金額 (千円)	5,152	4,999	5,062	4,892		



## 教育委員会の活動状況に関する点検及び評価調査票

番 号	3	事業名	「心の教育」推進事業(いじめ、暴力行為の防止)				
石巻市教育振興基本計画	施策目標	1 社会を生き抜く力の養成					
	基本施策	2 豊かな心の育成					
	施策の展開	3 いじめ、暴力行為の防止に向けた取組の推進					
【他の計画における位置づけ】							
総合計画	基本目標	個性と創造性豊かな未来の担い手をはぐくむまち					
	基本施策	「生きる力」を持つ子どもたちを育成する					
	施策の展開	児童生徒の豊かな心と体、確かな学力をはぐくむ					
	事業名	いじめ・生徒指導問題対策事業					
復興計画	施策大綱						
	節						
	細節						
	事業名						
担当課	学校教育課	事業期間	H20	～	摘要		
事業目的							
人間としてのより良い生き方を、主体的に追い求め実践していく児童生徒を育てる。							
事業効果							
人権教育を推進することで、児童生徒、保護者及び教職員の人権意識の高揚、児童生徒の道徳的実践力の向上が図られる。							
現状と課題							
児童生徒の規範意識やモラルの向上のため、心の教育の充実が求められる。道徳教育の充実を柱として人間としてのより良い生き方についての指導をしていく必要がある。							
事務事業の概要			年度別事業計画				
			H29	H30	R元	R2	R3
いじめ生徒指導問題対策協議会の開催						→	
いじめ防止標語・心のメッセージ集の作成						→	
指 標 名		単 位	H29目標値	H30目標値	R元目標値	R2目標値	R3目標値
活動指標	いじめや生徒指導について対策会議を定期的に行っている学校数(小・中・高)	校	54	53	53	53	52
成果指標	認知されたいじめの解消率(H30年度以降、継続事案分は除く)	%	100	100	100	100	100

**実施状況及び評価(CHECK)**

令和2年度の事業実施状況		1 石巻市いじめ問題対策連絡協議会の実施（3回実施） 2 石巻市生徒指導問題対策協議会の実施（3回実施） 3 いじめ・生徒指導問題対策に係る研修会の実施（いじめに関する講演会の実施、生徒指導対策についての講演会の実施） 4 「いじめ防止標語・心のメッセージ集」の作成・配布 5 「STOPいじめ！石巻市子どもサミット」の開催 6 いじめに係る重大事態に備え、第三者による調査委員会を設置、開催							
目標の達成状況  ※評価は下記の「評価基準」により記載	活動指標	指標名	いじめや生徒指導について対策会議を定期的に行っている学校数（小・中・高）						
			単位	H29	H30	R元	R2	R3	評価
		目標値	校	54	53	53	53	52	A
		実績	校	54	53	53	53		
		達成率	%	100.0	100.0	100.0	100.0		
	達成率	%	100.0	100.0	100.0	100.0			
	成果指標	指標名	認知されたいじめの解消率（目標値：継続事案分は除く）						
			単位	H29	H30	R元	R2	R3	評価
		目標値	%	100	100	100	100	100	C
		実績	%	77.5	72.8	77.1	65.8		
達成率		%	77.5	72.8	77.1	65.8			
達成率	%	77.5	72.8	77.1	65.8				
<b>【評価基準】</b> 達成率が100%以上 ……A 達成率が80%以上100%未満 ……B 達成率が60%以上80%未満 ……C 達成率が40%以上60%未満 ……D 達成率が40%未満 ……E 事業を実施できなかった ……F							総合評価		
							B		
取組の成果及び評価の理由		平成26年度に策定された「学校いじめ防止基本方針」により、教職員のいじめ防止に対する意識が向上した。また、組織としてのいじめ認知や解消の見立てについての研修を行ったことが、いじめが止んでも油断なく児童生徒の様子を最低3か月見守り、保護者とも連絡を取り合うなど細やかな取組につながっている。そのため、令和3年1月以降の案件についても、長期的に見取りを行っていることが解消率の低下に関係した。							
学識経験者からの意見		<b>【有見正敏氏】</b> 毎年継続して、いじめ問題に関する各種対策委員会の実施、諸会議、資料の配布など、いじめ防止に向けての学校づくりに、徹底して取り組んでいることは評価できます。今後の定例の校長会・教頭会において、いじめ対応の周知とともに、分かる授業づくり、認め合う人間関係づくりの推進に努めるよう指導をお願いします。							
		<b>【鍵頼信氏】</b> いじめ、生徒指導には、教職員が常にアンテナを高くして、児童生徒の小さな変化を見逃さないこと、学校全体がチームとして、情報を共有し対応することなどが大切です。また、児童生徒が、周りで起きていることを自分ごととして考えさせることが大切です。そのためには、道徳教育、体験活動の充実を図ることが大切です。ぜひ、引き続き人間関係づくりを推進していただきたい。							

【木村あけみ氏】

昨年度の件数より大幅に減ったという要因の一つに、コロナ禍の中で誹謗中傷をしないという指導や、消毒や衛生対策により、子どもたちの近くに寄り添った時間が多くなったということで、今後も、日頃の些細な変化にも目配りができ、また、見逃さないよう対策をお願いします。非常にデリケートな問題だと思いますので、引き続き寄り添った活動をお願いします。

課題・改善(ACTION)

事業を進める上での課題

いじめに対する児童・生徒の心の育成

今後の対応方針

校内の研修会を継続実施することで、未然防止につながるいじめを生まない風土づくりの推進

令和3年度の見込み

新規 継続 拡充・縮小) 休止 廃止 期間満了による終了

事業費 (決算額)	年度	H29	H30	R元	R2	R3	
	金額 (千円)		536	458	473	395	



## 教育委員会の活動状況に関する点検及び評価調査票

番 号	4	事業名	心のケア充実事業（震災心のサポート事業）				
石巻市教育振興基本計画	施策目標	1 社会を生き抜く力の養成					
	基本施策	2 豊かな心の育成					
	施策の展開	6 震災後の子どもの心のケア					
【他の計画における位置づけ】							
総合計画	基本目標						
	基本施策						
	施策の展開						
	事業名						
復興計画	施策大綱	未来のために伝統・文化を守り、人・新たな産業を育てる					
	節	未来の人を育てる*子どものケアの実施					
	細節	被災児童・生徒等への支援、心のケア					
	事業名	心のケア充実事業（震災心のサポート事業）					
担当課	学校教育課	事業期間	H23	～	摘要		
事業目的							
震災により心に深い傷を受けた園児・児童生徒等に対し、医療専門家による巡回相談やケース会議、健康実態調査を行い、心のケアを実施する。 死亡又は行方不明となった児童生徒等の遺族に対して、個別訪問や来室による相談等の支援活動を行う。							
事業効果							
心に深い傷を受けた園児・児童生徒の心の安定が図られる。 死亡又は行方不明となった児童生徒等の遺族からお話しを伺うことや、交流会を開催することができた。							
現状と課題							
子どもの発達段階や地域の実情に応じた心のケアの充実が必要である。 震災で死亡又は行方不明となった児童生徒等の遺族に対し、可能な限り、心の安定を図ることができるようなサポートを継続的に行うことが重要である。							
事務事業の概要		年度別事業計画					
		H29	H30	R元	R2	R3	
医療専門家による巡回相談、ケース会議		実施				→	
医療専門家による健康実態調査		実施				→	
遺族に対する個別相談等の支援活動		実施				→	
指 標 名		単 位	H29目標値	H30目標値	R元目標値	R2目標値	R3目標値
活動指標	未設定	/	/	/	/	/	/
成果指標	未設定	/	/	/	/	/	/

**実施状況及び評価(CHECK)**

令和2年度の事業実施状況	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 国府台病院児童精神科医師による相談・支援関係者会議を行った。</li> <li>2 課題を抱える児童生徒についての関係機関とのケース会議に、スーパーバイザーとして参加した。</li> <li>3 幼・小・中・高すべての幼児・児童生徒に健康実態調査を実施し、結果をすべての園・学校にリモートで医師との面談を行いながらフィードバックした。</li> <li>4 個別訪問、電話、来室により御遺族からお話しをお伺いすることができた。</li> <li>5 交流会の開催、支援室だよりの発行、支援室会議、サポート会議の開催</li> </ol>
--------------	---

目標の達成状況 ※評価は下記の「評価基準」により記載	活動指標	指標名	未設定						
			単位	H29	H30	R元	R2	R3	評価
		目標値							
		実績							
		達成率							
	成果指標	指標名	未設定						
			単位	H29	H30	R元	R2	R3	評価
		目標値							
		実績							
		達成率							

<b>【評価基準】</b> 達成率が100%以上 ……A 達成率が60%以上80%未満 ……C 達成率が40%未満 ……E	達成率が80%以上100%未満 ……B 達成率が40%以上60%未満 ……D 事業を実施できなかった ……F	総合評価
		C

取組の成果及び評価の理由	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 配慮を要する児童生徒についての専門的知見からの助言は、学校での指導や支援に大いに役立つとともに、場合によっては適切な医療機関につながるケースも見られた。</li> <li>2 健康実態調査の結果については学校ごとにリモート面談をし、全体の傾向、配慮を要する児童生徒についての助言があり、学校での指導に大いに生かされていた。</li> <li>3 訪問等により御遺族からお話しを伺うことや交流会に参加していただくことができた。</li> </ol>
--------------	--

学識経験者からの意見	<p><b>【有見正敏氏】</b>                  指標を設定することは難しい事業だと思いますが、訪問や交流会を開催して、御遺族から話を伺ったりすることで、心の支援ができていたことは、大変良かったと思います。今後も、御遺族に寄り添ったサポートができるような内容を考えてほしいと思います。また、配慮を要する児童生徒には、専門的知見から、引き続き指導や支援を続けるようお願いします。</p> <p><b>【鍵頼信氏】</b>                  御遺族の方々の考えとか、置かれてる立場は、10年過ぎて状況はかなり変化したと思います。しかし、大切な事業ですので、今後も寄り添った活動をお願いします。また、国府台病院との連携については、今年度も継続していますが、今後も、別な形ということで、会議だけではなく、専門的というところで、支援をお願いします。</p>
------------	---

	<p>【木村あけみ氏】  10年を経過しても、相談件数が259件もある状況を伺うと、まだこの事業に対しては評価するにも難しいと思います。ただ、この事業が令和5年まで延長して引き続き行うということなので、専門病院の先生からの助言をいただきながら対応し、心に寄り添った支援を今後もお願いします。</p>						
課題・改善(ACTION)							
事業を進める上での課題	1 国府台病院との連携は震災後10年の期限となり、国府台児童精神科医又は国府台病院に代わる支援が引き続き必要であるため、方策を探る必要がある。 2 心の安定に寄与できるよう引き続き御遺族に寄りそったきめ細やかなサポートを長期的に実施する必要がある。						
今後の対応方針	1 各学校、園の配慮を要する幼児・児童生徒の対応について、子ども関係支援者会議で国府台病院の専門の医師の助言を得られる支援体制をとり事業継続を図っていく。 2 御遺族に対する心の支援はまだ決して十分とは言えない状況であり、引き続きサポートを継続していく。						
令和3年度の見込み	新規 <u>継続</u> (拡充・縮小) 休止 廃止 期間満了による終了						
事業費 (決算額)	年度	H29	H30	R元	R2	R3	
	金額 (千円)	5,783	5,768	5,467	4,762		



## 教育委員会の活動状況に関する点検及び評価調査票

番 号	5	事業名	国際理解教育推進事業					
石巻市教育振興基本計画	施策目標	1 社会を生き抜く力の養成						
	基本施策	5 現代社会に対応した教育の推進						
	施策の展開	1 国際理解教育・外国語教育の充実						
【他の計画における位置づけ】								
総合計画	基本目標	個性と創造性豊かな未来の担い手をはぐぐむまち						
	基本施策	新たな時代を創造する人材を育成する						
	施策の展開	広い視野を持つ人材をはぐぐむ						
	事業名	国際理解教育推進事業						
復興計画	施策大綱							
	節							
	細節							
	事業名							
担当課	学校教育課	事業期間	H20	～	摘要			
事業目的								
小・中・高等学校及び幼稚園、こども園、けやき教室において、ALT（外国語指導助手）との授業を通して、外国語教育と国際理解教育の充実を図る。								
事業効果								
ALTが幼稚園から高等学校までの教育現場に配置され、また、コミュニティーの行事等へ参加することにより、児童生徒及び地域の人々の外国語学習や国際理解教育の推進に大きな効果が期待される。								
現状と課題								
外国語教育の改革が進み、小学校での授業数が増加したことから、ALTの人数を増やし、来校数を確保する必要がある。								
事務事業の概要				年度別事業計画				
				H29	H30	R元	R2	R3
外国語教育及び国際理解教育の実施				実施				→
ALTの配置				実施				→
指 標 名			単位	H29目標値	H30目標値	R元目標値	R2目標値	R3目標値
活動指標	ALTの1施設当たりの年間平均訪問日数		日	49	53	53	53	53
成果指標	ALTとの授業が楽しい生徒の割合		%	85	80	80	80	80

実施状況及び評価(CHECK)

令和2年度の事業実施状況		市立幼稚園、こども園、市立小・中・高、適応指導教室の全60の学校(園)を15ブロックに分け、ALTを15名配置した。それぞれの配置校(園)において、担当教員とのチームティーチングが実践され、ALTとの授業が楽しいと感じる生徒の割合も、89%と高い値を示した。							
目標の達成状況  ※評価は下記の「評価基準」により記載	活動指標	指標名	ALTの1施設当たりの年間平均訪問日数						
			単位	H29	H30	R元	R2	R3	評価
		目標値	日	49	53	53	53	53	B
		実績	日	44.3	46.1	48.1	47.3		
		達成率	%	90.4	87.0	90.8	89.2		
	指標名	ALTとの授業が楽しい生徒の割合(中学2年生)							
	成果指標		単位	H29	H30	R元	R2	R3	評価
		目標値	%	85	80	80	80	80	A
		実績	%	75.8	77.5	89.2	89.0		
		達成率	%	89.2	96.9	111.5	111.3		
<b>【評価基準】</b> 達成率が100%以上 ……A 達成率が80%以上100%未満 ……B 達成率が60%以上80%未満 ……C 達成率が40%以上60%未満 ……D 達成率が40%未満 ……E 事業を実施できなかった ……F							総合評価  B		
取組の成果及び評価の理由		新学習指導要領の施行のもと、小学校中学年で35時間の外国語活動、高学年で70時間の外国語科が完全実施となった。英語教育の改革に伴い、ALT自身が指導力向上への意識を高め、それぞれの所属校の外国語担当と連携しながら授業改善に努めている。また、教育委員会で開催している外国語指導助手配置事業説明会等の機会を通して、ALTの有効活用について各校の外国語指導担当と情報交換を深めていることが、ALTとの授業が楽しい生徒の割合を高い水準で維持できている要因と捉える。							
学識経験者からの意見		<b>【有見正敏氏】</b> 中学校において、ALTとの授業が楽しいと感じる生徒の割合が高い値を継続しています。ALTを増員していることと、チーム・ティーチングが有効に働いているからだと思えます。小学校においても、外国語の実数が増加しています。外国語教育、それから国際理解教育の充実を図るためには、今後のALTの増員は必要不可欠の状況となっていると思えます。また、訪問日数の目標を上回ることができるように指導補助員の補充も含めた配置をお願いします。							
		<b>【鍵頼信氏】</b> ALTとの授業は楽しいと感じている児童生徒が年々増えています。ALTの有効な活用が図られていることが大変よく分かります。しかし、ALTが令和元年に引き続き一人4校程度を担当していることは、小学校の中規模以上の学校では、十分な指導やコミュニケーションが図れていない状況と思えます。国際理解教育推進のためにも、ALTや補助員の増員をお願いします。							

	<p>【木村あけみ氏】 英語教育の改革に伴い、授業の在り方にも年々変化が求められていると思います。そのために、昨年度はALTや補助員を増員し、事業費も前年度に比べ717万円増加しており、ALTとの授業が楽しいという評価が出ている点は、評価できると思います。しかし、現場では十分な指導には足りていないという声が聞こえましたので、時代にあったより柔軟な対応を、今後も敏速に取り組んでいただきたい。</p>						
<b>課題・改善(ACTION)</b>							
事業を進める上での課題	<p>新学習指導要領では、小学校での外国語の時数が増加し、指導内容もより実際のコミュニケーションを意識したものになる。小学校におけるALTのニーズが高まっている中で、本市においては1人のALTが4校程度担当しており、児童・生徒が常にALTの指導を受けられる状況とはなっていない。今後、小学校へのALTの配置数を増やし、一層の指導の充実を図っていく必要がある。</p>						
今後の対応方針	<p>ALTを増員し、児童生徒数が常にネイティブスピーカーの英語に触れる機会を増やすとともに、地域のイベント等へのALTの積極的な参加を促し、地域全体を巻き込みながら国際理解教育を推進していく。</p>						
令和3年度の見込み	新規 (継続) (拡充)・縮小) 休止 廃止 期間満了による終了						
事業費 (決算額)	年度	H29	H30	R元	R2	R3	
	金額 (千円)	54,225	59,048	63,922	71,093	—	



## 教育委員会の活動状況に関する点検及び評価調査票

番 号	6	事業名	特別支援教育支援員配置事業				
石巻市教育振興基本計画	施策目標	1 社会を生き抜く力の養成					
	基本施策	6 特別支援教育の充実					
	施策の展開	1 学習支援体制の強化					
【他の計画における位置づけ】							
総合計画	基本目標	個性と創造性豊かな未来の担い手をはぐくむまち					
	基本施策	「生きる力」を持つ子どもたちを育成する					
	施策の展開	児童生徒の豊かな心と体、確かな学力をはぐくむ					
	事業名	特別支援教育支援員配置事業					
復興計画	施策大綱						
	節						
	細節						
	事業名						
担当課	学校教育課	事業期間	H20	～	摘要		
事業目的							
障害のある児童生徒が在籍する通常学級及び当該児童生徒に支援員を配置し、学習指導や生活指導の充実と学校生活における安全を保障する。							
事業効果							
小・中学校の通常学級に在籍する特別な支援を必要とする発達障害児等の学校生活に対する意欲の喚起や学習等の能力の育成を図るとともに、学級担任の指導の充実につながる。							
現状と課題							
様々な障害のある児童生徒が通常学級に在籍し、学級担任は配慮しながら指導を行っているものの、担任単独で対応している場合が多く、当該児童生徒への指導や安全確保の面で不十分なところがある。より充実した支援を図るため、継続的に支援員配置拡充及び配置後の支援員の資質の向上を図る必要がある。							
事務事業の概要			年度別事業計画				
			H29	H30	R元	R2	R3
特別支援教育支援員の小・中学校への配置			実施			→	
特別支援教育支援員研修会の実施			実施			→	
指 標 名		単 位	H29目標値	H30目標値	R元目標値	R2目標値	R3目標値
活動指標	特別支援教育支援員を必要とする小・中学校の充足率	%	100	100	100	100	100
成果指標	特別支援教育支援員配置に対する小・中学校の満足度	%	100	100	100	100	100

実施状況及び評価(CHECK)

令和2年度の事業実施状況		令和2年度は、小学校30校に71名、中学校13校に17名、計33校に88名の特別支援教育支援員を配置した。昨年度より3名多い配置である。各支援員は、校長をはじめ担任等の指示を受けながら、対象となる児童生徒のサポートに努めている。また、令和2年度は「初めて通級による指導を担当する教師のためのガイド」を配布し、児童生徒理解や具体的な支援方法を深めることができた。							
目標の達成状況 ※評価は下記の「評価基準」により記載	活動指標	指標名	特別支援教育支援員を必要とする小・中学校の充足率						
			単位	H29	H30	R元	R2	R3	評価
		目標値	%	100	100	100	100	100	D
		実績	%	59.0	45.3	48.9	50.0		
		達成率	%	59.0	45.3	48.9	50.0		
	成果指標	指標名	特別支援教育支援員配置に対する小・中学校の満足度						
			単位	H29	H30	R元	R2	R3	評価
		目標値	%	100	100	100	100	100	A
		実績	%	100	100	100	100		
達成率		%	100	100	100	100			
<b>【評価基準】</b> 達成率が100%以上 ……A 達成率が80%以上100%未満 ……B 達成率が60%以上80%未満 ……C 達成率が40%以上60%未満 ……D 達成率が40%未満 ……E 事業を実施できなかった ……F							総合評価 C		
取組の成果及び評価の理由		小・中学校の通常学級に在籍する発達障害の特性を示す児童生徒の在籍が年々増加している。令和2年度は、通常学級に在籍する支援を必要とする児童生徒が昨年度より28人増加している。そのため特別支援教育支援員を昨年度より3名増としたが、充足率は満たしていない。しかしながら、小・中学校で校内体制を工夫した支援員の活用を進めており、満足度は高い現状である。							
学識経験者からの意見		<b>【有見正敏氏】</b> 支援員の充足率は満たしていませんが、校内体制を工夫して活用した結果、満足度が高い状況にあることは高く評価できます。今後も、支援を必要とする児童生徒が増えることが予想されます。学級担任の負担軽減を図るため、支援員を増やしていただきたいと思います。また、各学校の特別支援教育コーディネーターの更なるリーダーシップをお願いします。							
		<b>【鍵頼信氏】</b> 通常学級において、支援を要する児童生徒が増えている現状で、多くの支援員を配置できていることは、学級担任の指導の充実につながっていると思います。非常に大切な事業であり、今後も一層の充実を図っていただきたい。また、支援員の増員と、教職員の研修、併せて、児童生徒がそのような子どもを受け入れる、受け入れていくという心の指導も併せてお願いします。							

	<p>【木村あけみ氏】          昨年度、支援を必要とする児童生徒が、28人増加したということで、支援員を3人増員しましたが、それでも充足率は満たしていないということで、現状の改善策と個別指導の実施に向けた体制強化を、引き続きお願いします。また、配属された支援員に対する応援体制も必要で、変化に対応できる支援員の資質の向上に対して、教育委員会が支援し、対象児童生徒に対し、十分な支援ができるように配慮していただきたい。</p>						
<b>課題・改善(ACTION)</b>							
事業を進める上での課題	発達がアンバランスだったり、社会性に困難を示したりする児童生徒が増えていることが課題である。また、保護者の支援員配置を求めるニーズも高い。						
今後の対応方針	今後も各関係機関が連携し、未就学段階から適切な早期支援を行うと共に、切れ目ない支援の継続と適切な就学支援、進路指導を進め、個別支援がなければ困難さが増大する児童生徒に対し十分な支援ができる体制整備を進めていく。						
令和3年度の見込み	新規 <u>継続</u> ( <del>拡充</del> ) 縮小) 休止 廃止 期間満了による終了						
事業費(決算額)	年度	H29	H30	R元	R2	R3	
	金額(千円)	80,152	86,326	90,439	109,236		



## 教育委員会の活動状況に関する点検及び評価調査票

番 号	7	事業名	適応指導教室運営事業					
石巻市教育振興基本計画	施策目標	1 社会を生き抜く力の養成						
	基本施策	7 不登校児童生徒対策の充実						
	施策の展開	3 不登校児童生徒への支援の充実						
【他の計画における位置づけ】								
総合計画	基本目標	個性と創造性豊かな未来の担い手をはぐくむまち						
	基本施策	「生きる力」を持つ子どもたちを育成する						
	施策の展開	児童生徒の豊かな心と体、確かな学力をはぐくむ						
	事業名	適応指導教室運営事業						
復興計画	施策大綱							
	節							
	細節							
	事業名							
担当課	学校教育課	事業期間	H12	～	摘要			
事業目的								
不登校児童生徒個々の実態等に応じた生徒指導、学習指導、適応指導を行い、自立を促しながら学校への復帰を図る。								
事業効果								
不登校児童生徒にとって、学校と違う場所で指導員や友達と関わりながら、学習やいろいろな体験活動を行うことは、学校復帰に向けた大きな支援となっている。学校の行事等をきっかけに学校に部分登校したり、復帰したりした児童生徒もおり、効果は大きいものがある。								
現状と課題								
例年10名前後の通所児童生徒がおり、個々の実情に応じた指導がなされている。「石巻市子どものサポートハウス」が施設内に設置されたことから、不登校児童生徒への相談対応の総合センター的な役割を果たしている。発達に障害をもつ児童生徒のための支援の実施も検討する必要がある。								
事務事業の概要				年度別事業計画				
				H29	H30	R元	R2	R3
通所児童生徒との教育相談、及び学校、保護者との連携				実施				→
児童生徒の実態等に応じた学習指導				実施				→
人間関係、仲間づくりを目的とした体験活動の充実				実施				→
指 標 名		単 位	H29目標値	H30目標値	R元目標値	R2目標値	R3目標値	
活動指標	不登校児童生徒の保護者、担任教諭等との相談件数	件	100	100	100	100	100	
成果指標	通所児童生徒の再登校率（部分登校含む）	%	80	80	80	80	80	

**実施状況及び評価(CHECK)**

令和2年度の事業実施状況		<p>1 「石巻市こどものサポートハウス」を中心に、児童生徒、保護者、学校とも相談しながら連携を図った。</p> <p>2 「けやき教室」では個々の児童生徒の実態に応じて時間割を作り、個別に学習指導を行いながら、外部講師を招いての一斉指導の時間も設定した。</p> <p>3 「体験活動」を年間指導計画に位置付け、他者との関わりを重視する活動を行った。</p>							
<p>目標の達成状況</p> <p>※評価は下記の「評価基準」により記載</p>	活動指標	指標名	不登校児童生徒の保護者、担任教諭等との相談件数						
			単位	H29	H30	R元	R2	R3	評価
		目標値	件	100	100	100	100	100	B
		実績	件	89	66	81	77		
		達成率	%	89.0	66.0	81.0	77.0		
	成果指標	指標名	通所児童生徒の再登校率（部分登校含む）						
			単位	H29	H30	R元	R2	R3	評価
		目標値	%	80	80	80	80	80	B
		実績	%	75.0	78.9	77.2	76.4		
		達成率	%	93.8	98.6	96.5	95.5		
<p><b>【評価基準】</b> 達成率が100%以上 ……A 達成率が80%以上100%未満 ……B          達成率が60%以上80%未満 ……C 達成率が40%以上60%未満 ……D          達成率が40%未満 ……E 事業を実施できなかった ……F</p>							総合評価		
							B		
取組の成果及び評価の理由		<p>相談が必要と思われる児童生徒や保護者に対する家庭や学校への訪問相談により、相談件数が依然として高く、評価は「B」とした。適応指導教室に通う全員の再登校に至らず、評価は「B」で、総合評価も「B」とした。</p>							
学識経験者からの意見		<p><b>【有見正敏氏】</b>          不登校児童生徒の保護者、担任教諭等との相談件数は、依然として高くなっています。何とか学校へ復帰したいという思いが分かります。個々それぞれの対応が必要な中、体験活動は、大変有効な支援であると考えます。今後も、児童生徒の視野を広げられるような内容を考えてください。また、支援に当たっては、専門家を加えた的確なアセスメントを行い、学校と家庭、関係機関等と連携して行ってください。</p> <p><b>【鍵頼信氏】</b>          けやき教室への通所児童の増加、相談件数も増加しています。やはり、支援が必要な児童生徒、保護者にとっては大切な場所であり、必要な事業でもあります。今後も、適応指導教室、学校、家庭、関係機関とも連携した取組をお願いします。また、指導員を増員しての対応をお願いします。</p> <p><b>【木村あけみ氏】</b>          支援を必要とする児童生徒の増加に伴い、前年度より事業費を増やし、対応して取り組んでいることは評価します。コロナ禍により、新たな問題も発生していることから、保護者や学校教育課との連携を図りながら、引き続き、拡充が必要な場合は、臨機応変に対応した事業にしていきたいです。</p>							

課題・改善(ACTION)

事業を進める上での課題	<p>「けやき教室」通所児童生徒数が増加し、発達に障害をもつ割合も高まっている。また、家から出られず「けやき教室」に通えない児童生徒に対する家庭や学校への訪問指導など、より手厚い支援を必要とする児童生徒が増加しており、対応する人員の不足が課題である。</p>						
今後の対応方針	<p>「石巻市子どものサポートハウス」が適応指導教室「けやき教室」内にあるため、児童生徒の実態に応じた通所支援、訪問支援に臨機応変に対応できる。 しかし、対応を必要とする児童生徒数が増加していることから、昨年度1名増員したけやき教室の指導員を今後も継続配置する。</p>						
令和3年度の見込み	<p>新規 <u>継続</u> (<del>拡充</del>) 縮小 休止 廃止 期間満了による終了</p>						
事業費 (決算額)	年度	H29	H30	R元	R2	R3	
	金額 (千円)	5,202	5,255	5,156	7,738		



## 教育委員会の活動状況に関する点検及び評価調査票

番 号	8	事業名	桜坂高等学校の魅力ある学校づくり事業				
石巻市教育振興基本計画	施策目標	1 社会を生き抜く力の養成					
	基本施策	1 0 高校教育の充実					
	施策の展開	1 魅力あるカリキュラムの提供、教育内容の充実					
【他の計画における位置づけ】							
総合計画	基本目標	個性と創造性豊かな未来の担い手をはぐぐむまち					
	基本施策	「生きる力」を持つ子どもたちを育成する					
	施策の展開	魅力ある高等学校教育を推進する					
	事業名	桜坂高等学校の魅力ある学校づくり事業					
復興計画	施策大綱						
	節						
	細節						
	事業名						
担当課	学校教育課	事業期間	H25	～	摘要		
事業目的							
桜坂高校の教育の三本柱である「品格教育」、「キャリア教育」、「学力保証」の推進及び充実に図り、生徒の進路希望や興味・関心、社会の動向に対応しながら、人間的な成長と品格の涵養に努め、石巻市の未来を担う人材の育成及び輩出を目指す。							
事業効果							
三本柱の推進及び充実により、桜坂高校の魅力がさらに向上することで、募集定員の確保につながるとともに、石巻市の未来を担う人材の育成が図られる。							
現状と課題							
令和3年度入学生は前年度と比較し20人減となり、学励探求コース・キャリア探求コースともに定員割れが続いている状況である。魅力ある学校づくり事業をさらに推進し、定員の確保に向けて、より一層、教育活動を充実させ「学校の魅力の向上」を図るとともに、「学校の魅力発信」に努め、桜坂高校の魅力を石巻市内外に強力にPRしていく必要がある。							
事務事業の概要				年度別事業計画			
				H29	H30	R元	R2
桜坂高校の三本柱の推進に係る各種講座等の実施				実施			→
指 標 名		単 位	H29目標値	H30目標値	R元目標値	R2目標値	R3目標値
活動指標	事業の実施状況（各種講座予定回数に対する実施回数の割合）	%	100	100	100	100	100
成果指標	市立高校生が本市に住み続けたと思う割合	%	70	70	70	70	70

実施状況及び評価(CHECK)

令和2年度の事業実施状況		<p>生徒一人ひとりの将来の夢実現のために各方面から講師を招いて講座等を実施した。生徒を対象とした各種講座等については以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・品格教育に関わる講座 … 3回</li> <li>・学力保証に係る講座 … 0回</li> <li>・キャリア教育に係る講座 … 9回</li> </ul> <p>特に、地域に貢献できる人材の育成を図るための事業とし、総合的な学習の時間・総合的な探究の時間（桜坂タイム）を活用し、全学年で実施した。</p>							
<p>目標の達成状況</p> <p>※評価は下記の「評価基準」により記載</p>	活動指標	指標名	事業の実施状況（各種講座予定回数に対する実施回数の割合）						
			単位	H29	H30	R元	R2	R3	評価
		目標値	%	100	100	100	100	100	D
		実績	%	100.0	100.0	100.0	40.0		
		達成率	%	100.0	100.0	100.0	40.0		
	成果指標	指標名	市立高校生が本市に住み続けたいと思う割合						
			単位	H29	H30	R元	R2	R3	評価
		目標値	%	70	70	70	70	70	C
		実績	%	51.6	61.8	50.6	53.9		
達成率		%	73.7	88.3	72.3	77.0			
<p>【評価基準】 達成率が100%以上 ……A 達成率が80%以上100%未満 ……B</p> <p>達成率が60%以上80%未満 ……C 達成率が40%以上60%未満 ……D</p> <p>達成率が40%未満 ……E 事業を実施できなかった ……F</p>							総合評価		
							C		
取組の成果及び評価の理由		<p>新型コロナウイルス感染症の影響を受け、事業の実施率はかなり低くなった。</p> <p>また、3年生を対象とした5月のアンケート調査において、石巻市への居住志向については53.9%となり、昨年度よりわずかに上昇した。</p>							
学識経験者からの意見		<p>【有見正敏氏】</p> <p>コロナ感染症の影響により、実施できなかった講座もあり、事業の実施率がかなり低く、大変残念な結果となりました。桜坂高等学校の三本柱は、魅力発信の要であるだけに、方法や時期を見直すなどして実施する必要があります。定員の確保のために、これまで以上に強力な魅力発信とともに、管理職による近隣市町の学校への学校訪問をお願いします。また、専門家の意見を反映させた事業を実施していただきたい。</p> <p>【鍵頼信氏】</p> <p>昨年度の制服の着こなしや生活態度を見直すことなどの意見により、その反省に基づいて品格教育に取り組むなど、豊かな人間性の育成を図ったことに感謝申し上げます。さらに指導を続けていただくようお願いします。やはり、地元の中学生在が桜坂高等学校に入学したい、憧れていると思うような高校生になってほしいと思います。また、コロナ禍でもできることがありますので、小中学生との交流、市民との協働事業を更に増やしていただきたい。そして、石巻市の魅力をどんどん発信してください。</p>							

【木村あけみ氏】  
 コロナ感染症の影響とはいえ、活動指標の実績が40パーセントと少ないのは、やはり工夫が足りなかったのではないのでしょうか。感染対策を強化してでも、その学年や年齢だから感じたり、心が動くかけがえのない大事な時期であることを前提に検討していただきたい。石巻地区の子どもの数が減少している現状を把握しているならば、なおさら、学校の魅力を発信する必要があり、そのために地元企業やファシリテーターを活用し学ぶ機会を増やし、将来の職業を考えられる環境をできるだけ多く作ってください。他校にはない取組を行っている学校として、将来を見据えた中学生が受験したいと思える学校になるよう切に希望します。

**課題・改善(ACTION)**

事業を進める上での課題  
 石巻地区の中学校における卒業生数は、平成31年から令和10年までの間に300人程度減少する見込みとなっているとともに、令和2年度入試の石巻地区高校の倍率は0.87倍であった。定員を確保するには、より一層、「学校の魅力発信」に努め、市内及び市外からの入学生を増やす必要がある。

今後の対応方針  
 女子高ならではの学習、地域と連携した教育活動を充実させることで「学校の魅力向上」を図るとともに、中学校・塾訪問、ホームページの充実、オープンキャンパス、学校公開、ポスターの発行等を通して「学校の魅力発信」に努める。

令和3年度の見込み  
 新規 継続 拡充・縮小) 休止 廃止 期間満了による終了

事業費(決算額)	年度	H29	H30	R元	R2	R3	
	金額(千円)	2,476	3,812	3,324	2,181		



## 教育委員会の活動状況に関する点検及び評価調査票

番 号	9	事業名	学校防災推進事業					
石巻市教育振興基本計画	施策目標	1	社会を生き抜く力の養成	2	安全に安心して学ぶための環境づくり			
	基本施策	4	防災教育の充実	2	児童生徒の安全の確保			
	施策の展開	1	防災教育の充実	1	危機管理体制の整備			
【他の計画における位置づけ】								
総合計画	基本目標							
	基本施策							
	施策の展開							
	事業名							
復興計画	施策大綱	未来のために伝統・文化を守り、人・新たな産業を育てる						
	節	未来の人を育てるために						
	細節	子どものケアの実施						
	事業名	防災教育充実事業						
担当課	学校安全推進課	事業期間	H23	～	摘要			
事業目的								
児童生徒の発達段階に応じた系統的防災教育を実践するとともに、学校防災の充実のために、学校と地域や関係機関等との連携強化を図る。								
事業効果								
児童生徒の実態及び学校の周辺環境に応じた防災教育が実践され、児童生徒の災害対応力が向上するとともに、学校と地域や関係機関等との連携による災害発生時の的確な緊急対応が可能となる。								
現状と課題								
東日本大震災では、大規模災害時における「公助」の限界が明らかとなり、「自助」、「共助」の力を向上させる防災教育への関心が高まっている。 今後、震災を体験していない児童生徒及び教職員が増えていく。街の復興も進み、目に見える震災の被害が少なくなっていく中で、いかに児童生徒らに震災の事実、教訓を語り継いでいくかが課題である。								
事務事業の概要				年度別事業計画				
				H29	H30	R元	R2	R3
防災教育、避難訓練の実施								→
防災教育副読本の作成と活用								→
学校防災推進会議による地域と連携した学校防災の推進								→
指 標 名		単 位	H29目標値	H30目標値	R元目標値	R2目標値	R3目標値	
活動指標	防災教育・避難訓練の実施 (副読本を用いた授業実施)	校	53	52	52	52	51	
成果指標	防災教育副読本「未来へつなぐ」を活用した防災教育の実施率	%	100	100	100	100	100	

**実施状況及び評価(CHECK)**

令和2年度の事業実施状況	<p>各学校では、学校の立地に合わせた災害を想定し避難訓練が実施されている。また、緊急地震速報受信機設置校では、同受信機を活用した実践的な避難訓練が実施されている。</p> <p>防災教育副読本については、全ての学校で有効に活用されており、児童生徒一人ひとりに「自分の命は自分で守る」ことの意識を高めることができた。ただ、震災から各学校の実情にも変化が見られ、それに対応できるよう、令和2年度から改訂版を配本し、活用している。</p>
--------------	---

目標の達成状況  ※評価は下記の「評価基準」により記載	活動指標	指標名	防災教育及び避難訓練の実施（副読本を用いた授業実施）													
		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;"></td> <td style="width: 10%;">単位</td> <td style="width: 10%;">H29</td> <td style="width: 10%;">H30</td> <td style="width: 10%;">R元</td> <td style="width: 10%;">R2</td> <td style="width: 10%;">R3</td> <td style="width: 10%;">評価</td> </tr> </table>		単位	H29	H30	R元	R2	R3	評価						
			単位	H29	H30	R元	R2	R3	評価							
		目標値	校	53	52	52	52	51	A							
		実績	校	53	52	52	52									
	達成率	%	100	100	100	100										
	達成率	%	100	100	100	100										
	成果指標	指標名	防災教育副読本「未来へつなぐ」を活用した防災教育の実施率													
		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;"></td> <td style="width: 10%;">単位</td> <td style="width: 10%;">H29</td> <td style="width: 10%;">H30</td> <td style="width: 10%;">R元</td> <td style="width: 10%;">R2</td> <td style="width: 10%;">R3</td> <td style="width: 10%;">評価</td> </tr> </table>		単位	H29	H30	R元	R2	R3	評価						
			単位	H29	H30	R元	R2	R3	評価							
目標値		%	100	100	100	100	100	A								
実績		%	100	100	100	100										
達成率	%	100	100	100	100											
達成率	%	100	100	100	100											

<b>【評価基準】</b> 達成率が100%以上 ……A 達成率が80%以上100%未満 ……B 達成率が60%以上80%未満 ……C 達成率が40%以上60%未満 ……D 達成率が40%未満 ……E 事業を実施できなかった ……F	総合評価
	A

取組の成果及び評価の理由	<p>各学校では、立地条件や過去の災害状況等を踏まえた避難訓練が実施され、児童生徒らは円滑かつ迅速な避難行動をとることができている。また、緊急地震速報受信機を活用した訓練では、児童生徒はより臨場感を持って訓練に取り組むことができている。</p> <p>防災教育副読本の活用については、発達段階に応じた系統的な指導により、児童生徒に必要な知識や能力を身に付けさせることができた。</p>
--------------	--

学識経験者からの意見	<p><b>【有見正敏氏】</b>                  各学校で様々な災害を想定した避難訓練、管理職や担当者が不在時を想定した訓練など、実践的な取組が増えていることなど、充実した防災教育が実践されていることは、高く評価できます。今後、地域防災連絡会を踏まえた地域、行政、行政機関と連携した避難訓練の充実をお願いします。また、震災を体験していない児童、生徒、教職員が増えている中、防災副読本の有効な活用など、震災を風化させない取組を更にお願います。</p> <p><b>【鍵頼信氏】</b>                  各学校では、防災教育の重要性を理解し、真剣に取り組んでおり評価できます。また、防災副読本の改定や、様々なケースを想定した避難訓練など、高みを目指した防災教育に取り組んでいることも、評価できます。震災から10年以上が過ぎ、地域の現状、児童生徒の実態、置かれている立場も大きく変化しています。各学校の防災計画も、実情に合わせて改訂していく必要があると思います。また、教職員の異動もあり学校の実情も変化していますので、その点を踏まえ教育委員会、校長会からも指導をお願いします。</p>
------------	--

	<p>【木村あけみ氏】 地震や津波だけではなく、水害など災害は多岐にわたり起こりますので、いざとなれば学校は必ず避難所として受け入れなければならない状況を踏まえ、各学校でも真剣に取り組んでいただいていることを高く評価します。今後も、想定外が想定内になるよう、あらゆる角度から検討し、各学校の実情の変化に伴った、より時代にあった防災教育を充実させていただきたいです。</p>						
<b>課題・改善(ACTION)</b>							
事業を進める上での課題	<p>児童生徒が「自分の命は自分で守る」ことができるよう、災害時に主体的に行動する力を育成するためには、今後も継続して防災教育副読本を活用した防災教育の推進と避難訓練の実施が不可欠であり、地域における公助の面での指導も充実させる必要がある。</p>						
今後の対応方針	<p>東日本大震災から10年以上経過し、防災教育副読本には実情に合わない内容項目があったことから、令和元年度に改訂作業を行い、令和2年4月に配布している。今後、新たな副読本を活用し、防災教育の推進を図る。</p>						
令和3年度の見込み	<p>新規 <b>継続</b>(拡充・縮小) 休止 廃止 期間満了による終了</p>						
事業費(決算額)	年度	H29	H30	R元	R2	R3	
	金額(千円)	4,238	4,684	7,484	3,726		



石巻市教育振興基本計画実施計画事業調査票

番号	10	事業名	協働教育推進事業					
石巻市教育振興基本計画	施策目標	3 地域ぐるみで子どもを育てる環境づくり						
	基本施策	2 地域との連携・協働の強化						
	施策の展開	2 地域との連携・協働による学習活動の充実						
【他の計画における位置づけ】								
総合計画	基本目標	個性と創造性豊かな未来の担い手をはぐくむまち						
	基本施策	地域全体で子どもたちを育成する						
	施策の展開	地域・家庭の教育力を強化する						
	事業名	協働教育推進事業						
復興計画	施策大綱							
	節							
	細節							
	事業名							
担当課	生涯学習課	事業期間	H18	～	摘要			
事業目的								
<p>「子どもたちの抱えるいじめ、不登校、学力や体力の低下等の諸問題の解決」並びに「生きる力をはぐくむ教育活動の充実・改善」という課題解決に向けて、「学校・地域・家庭が、それぞれの機能を果たしながら協働し、社会の中でたくましく生きる子どもたちを地域全体ではぐくむ協働教育」を推進する。</p>								
事業効果								
<p>各学校において、学校・地域・家庭が、それぞれの機能を果たしながら協働する多様な「協働教育」のプログラムが創出され、様々な実践が展開できる。このことにより、児童生徒の学習活動の質を高め、学ぶ意欲をはじめとする確かな学力の向上、多様な人々との関わりや体験を通じた豊かな心の育成が期待できる。また、協働教育への協力を呼びかける中で、新たな人材との出会いが生まれ、活動の充実につながることが期待できる。</p>								
現状と課題								
<p>令和2年度は、3年継続した5校が事業から外れ、新規5校を加えての計15校で事業を実施した。各実施校では、新たな取組と併せて、これまで取り組んできた活動を、保護者や地域住民と協働して実施した。実施校全体での事業回数は401回、参加ボランティアの延べ人数は2,351人であった。また、協働教育支援会議における実施校の報告及び意見交換は、それぞれの小・中学校区の協働教育を改善・充実させるうえで有益な情報になっている。各小・中学校区に地域コーディネーターとしての資質を備えた人材の配置と育成が課題となっている。</p>								
事務事業の概要			年度別事業計画					
			H29	H30	R元	R2	R3	
協働教育推進委託事業			実施					
協働教育支援会議の開催（年2回） 協働教育フォーラムの開催			実施					
石巻市協働教育コーディネーター委嘱事業			実施					
学校支援地域コーディネーター委嘱事業			実施					
指 標 名		単位	H29目標値	H30目標値	R元目標値	R2目標値	R3目標値	
活動指標	協働教育推進委託事業による協働教育組織の再編・設置数	学校数	9	14	15	15	15	
成果指標	学校と地域による協働教育を実施している学校数	学校数	53	52	52	52	52	

実施状況及び評価(CHECK)

令和2年度の事業実施状況		協働教育推進事業は、市内15校の小・中学校で実施した。協働教育支援会議は年2回、7月と1月に開催し、協働教育フォーラムは10月に開催した。協働教育コーディネーターは、市内全小学校の教職員を対象として計33名を委嘱（各校1名）、また、市内各小・中学校区の地域住民等を対象として計17名を学校支援地域コーディネーターとして委嘱した。							
目標の達成状況  ※評価は下記の「評価基準」により記載	活動指標	指標名	協働教育推進委託事業による協働教育組織の再編・設置数						
			単位	H29	H30	R元	R2	R3	評価
		目標値	学校数	9	14	15	15	15	A
		実績	学校数	9	14	15	15		
		達成率	%	100	100	100	100		
	指標名	学校と地域による協働教育を実施している学校数							
	成果指標		単位	H29	H30	R元	R2	R3	評価
		目標値	学校数	53	52	52	52	51	A
		実績	学校数	53	52	52	52		
		達成率	%	100	100	100	100		
【評価基準】		達成率が100%以上 達成率が60%以上80%未満 達成率が40%未満	・・・A ・・・C ・・・E	達成率が80%以上100%未満 達成率が40%以上60%未満 事業を実施できなかった	・・・B ・・・D ・・・F	総合評価			
取組の成果及び評価の理由		令和2年度は15校の小・中学校で事業を実施することができた。コロナ禍で思うような活動ができなかった学校もあったが、地域の住民や企業等と協働した教育が行われ、児童生徒にとって有意義な活動が行われた。また、協働教育推進事業実施校以外の学校でも協働教育に取り組みされている。							
学識経験者からの意見		<p>【有見正敏氏】 地域に開かれた学校教育を推進していく上で、協働教育の果たす役割は大きいと思います。授業の設置校数、協働教育の実施校数とも目標値に達していることは評価できます。今後も、研修会、実践報告書の提供を継続することで、協働教育の更なる充実を図ってください。また、協働教育コーディネーター、地域コーディネーターの配置と育成の充実も合わせてお願いします。</p> <p>【鍵頼信氏】 コロナ禍で思うような活動ができなかった中でも、地域住民と学校が協働した教育が行われたことは、高く評価できます。学校、家庭、地域が連携して、児童生徒を育てていく、見守っていく事は素晴らしい事なので、今後も推進していただくようお願いします。また、今後も地域コーディネーターの配置等の充実と研修等をお願いします。</p> <p>【木村あけみ氏】 コロナ感染症の影響もあった中で、それぞれの学校で工夫し実施してくださったおかげで、令和2年度も高い評価があり素晴らしいと思います。今後も継続して、地域と学校で協働教育を進めてください。</p>							

課題・改善(ACTION)

事業を進める上での課題	地域と学校との協働活動を推進していくためには、地域の人材発掘と活動推進の核となる学校支援地域コーディネーターの配置と、組織的・継続的な仕組みが必要である。						
今後の対応方針	研修会や会議等の機会を活用しながら各学校の教職員及び学校支援地域コーディネーターと連携し、人材発掘も含めた各種情報の共有を図り、事業を進めていく。また、各小・中学校区で実践されている協働教育の取組について、今後も継続して発信していく。						
令和3年度の見込み	新規 <u>継続</u> ( <del>拡充</del> 縮小) 休止 廃止 期間満了による終了						
事業費 (決算額)	年度	H29	H30	R元	R2	R3	
	金額 (千円)	1,717	2,417	2,404	2,143		



## 教育委員会の活動状況に関する点検及び評価調査票

番 号	1 1	事業名	スポーツ振興事業					
石巻市教育振興基本計画	施策目標	1 社会を生き抜く力の養成	4 豊かな地域社会を育む学習・スポーツ・文化の推進					
	基本施策	3 健やかな体の育成	2 生涯にわたるスポーツ活動の推進					
	施策の展開	2 学校や地域における子どもの運動やスポーツに親しむ機会の充実	1 スポーツ活動の機会の充実	3 スポーツに対する意識啓発				
【他の計画における位置づけ】								
総合計画	基本目標	心ゆたかな誇れるまち						
	基本施策	市民が個性を活かして輝ける機会をつくる						
	施策の展開	市民の主体的なスポーツ活動を支援する						
	事業名	スポーツ振興事業						
復興計画	施策大綱							
	節							
	細節							
	事業名							
担当課	体育振興課	事業期間	H17	～	R3	摘要		
事業目的								
市民の健康づくりと交流促進、成人のスポーツ実施率の向上やスポーツ少年団加入率の向上等をめざす。								
事業効果								
平成29年度に策定した石巻市スポーツ推進計画の到達目標である「成人の週1回以上のスポーツ実施率を宮城県水準へ押し上げる」及び「子どもたちの体力と運動能力を全国水準へ押し上げる」ことが期待できる。								
現状と課題								
各種スポーツ事業については、NPO法人石巻市スポーツ協会をはじめとした関係団体と連携した企画・運営や実技指導などの結果、参加人数は増加傾向にある。今後も、NPO法人石巻市スポーツ協会との協働体制を継続し、多くの市民が参加しやすい環境の整備や参加意識の向上に努めたい。								
事務事業の概要				年度別事業計画				
				H29	H30	R元	R2	R3
いしのまき復興マラソン				実施				→
いしのまき市民スポーツフェスタ				実施				→
いしのまきキッズ交流大会 兼 石巻市スポーツ少年団交流大会				実施				→
スポーツ教室（キッズバラエティ・体育館スポーツ教室）				実施				→
指 標 名			単 位	H29目標値	H30目標値	R元目標値	R2目標値	R3目標値
活動指標	事業開催数		回	6	6	6	6	6
成果指標	参加者数		人	4,000	4,000	4,000	4,000	4,000

実施状況及び評価(CHECK)

令和2年度の事業実施状況		スポーツ振興事業の目玉と位置付けている「いしのまき復興マラソン」や、小学生を対象とした「リレーマラソン」と「キッズ交流大会」は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止としたが、様々なスポーツの体験を行える「市民スポーツフェスタ」などについては、会場を屋外にするなど感染症対策を行った上で実施することができた。								
目標の達成状況  ※評価は下記の「評価基準」により記載	活動指標	指標名	事業開催数						D	
			単位	H29	H30	R元	R2	R3		評価
		目標値	回	6	6	6	6	6		D
		実績	回	6	6	5	3			
		達成率	%	100.0	100.0	83.3	50.0			
	成果指標	指標名	参加者数						C	
			単位	H29	H30	R元	R2	R3		評価
		目標値	人	4,000	4,000	4,000	4,000	4,000		C
		実績	人	4,729	5,936	5,437	2,640			
		達成率	%	118.2	148.4	135.9	66.0			
<b>【評価基準】</b> 達成率が100%以上 ……A 達成率が80%以上100%未満 ……B 達成率が60%以上80%未満 ……C 達成率が40%以上60%未満 ……D 達成率が40%未満 ……E 事業を実施できなかった ……F							総合評価			
							C			
取組の成果及び評価の理由		令和2年度は、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、いしのまき復興マラソン、一部のスポーツイベントやスポーツ教室等を中止とした。 「成人のスポーツ実施率の向上」や「子どもたちの体力と運動能力の向上」を目標に掲げ、多くの市民が参加しやすいスポーツ環境の整備や参加意識を向上させるため、今後も石巻市スポーツ協会と連携し、スポーツ推進を図る。 復興マラソンの参加率が達成率に大きく影響するため、成果指標評価はCであるが、実施した事業については目標値達成に十分な参加があった。								
学識経験者からの意見		<b>【有見正敏氏】</b> スポーツ振興事業の目玉と位置づけている事業が、感染症拡大防止のために中止となりましたが、感染症対策を行った上で実施した事業もあり、担当課の努力が伺えます。スポーツは、健康増進と生涯スポーツに親しむ市民生活の充実に欠かせないものです。今後も、市民の主体的なスポーツ活動を支援できるようお願いします。また、実施する場合には、今回の教訓を踏まえ、いろいろな状況を想定して取り組んでください。  <b>【鍵頼信氏】</b> コロナ禍において、実績人数が令和元年度と比べて半数以下になったのは、仕方のないことだと思います。しかし、市民のスポーツに対する意識は、少しずつ震災以降、高まってきていますので、今後もコロナ対策をしっかりと行い、市民が参加しやすい環境整備や、参加意欲の向上に努めていただきたい。								

**【木村あけみ氏】**

コロナ感染対策防止のため、石巻スポーツイベントが軒並み中止になったことは、本当に残念です。しかし、実施したイベントに対しては、参加者からも十分な評価を得たということで、今後も感染対策を強化し、安全安心なスポーツイベントを企画して実施していただきたいです。

**課題・改善(ACTION)**

事業を進める上での課題

「いしのまき復興マラソン」の参加者が年々減少傾向であり、内容の充実を図るため、今後も実行委員会と綿密な協議を行い、一層の工夫が必要である。また、「いしのまき復興マラソン」の名称については、震災から10年経過していることから、変更について関係機関との協議を行っている。

今後の対応方針

スポーツ振興事業の発展のためにも、委託先であるNPO法人石巻市スポーツ協会の組織強化が急務であり、組織強化に向けた取組が必要となる。

令和3年度の見込み

新規 継続 拡充 縮小) 休止 廃止 期間満了による終了

事業費(決算額)

年度	H29	H30	R元	R2	R3	
金額(千円)	4,214	5,214	5,214	4,075		



## 教育委員会の活動状況に関する点検及び評価調査票

番 号	1 2	事業名	読書環境整備事業				
石巻市教育振興基本計画	施策目標	4	豊かな地域社会を育む学習・スポーツ・文化の推進				
	基本施策	1	生涯学習の推進				
	施策の展開	2	学習環境の充実				
【他の計画における位置づけ】							
総合計画	基本目標	心豊かな誇れるまち					
	基本施策	市民が個性を生かして輝ける機会をつくる					
	施策の展開	市民の主体的な学習活動を支援する					
	事業名	読書環境整備事業					
復興計画	施策大綱						
	節						
	細節						
	事業名						
担当課	図書館	事業期間	H20	～	摘要		
事業目的							
<p>図書館法第3条に基づき、必要な資料を収集し市民の利用に供する。公立図書館は「図書、記録その他必要な資料・情報を収集、整理、保存して、市民の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するとともに、市民の教育と文化の発展に寄与する」ことを目的としている。これらを踏まえ、市民の要望に応えるため、魅力ある図書資料や情報の収集・提供に努め、図書館サービスを推進する。</p>							
事業効果							
<p>貸出冊数は、震災の平成23年度は167,048冊に激減し、その後回復傾向にあったが、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度は216,994冊となった。資料の収集については、東日本大震災や郷土に関する資料を積極的に保存し、読書活動の推進については、乳幼児・児童への各種おはなし会の開催、また渡波、蛇田公民館での出張図書館の実施等により、館内外で利用促進に努め、市民の図書に親しむ環境作りにつなげた。</p>							
現状と課題							
<p>各分野において多様かつバランスの取れた資料構成への見直しや、ビジネス書等、社会情勢の動向を考慮し最新の情報及び利用ニーズに留意し収集する必要がある。 また、読書環境を充実させた上で、子どもの読書活動を推進し、活字離れや読解力低下傾向の緩和に努めなければならない。</p>							
事務事業の概要			年度別事業計画				
			H29	H30	R元	R2	R3
図書、記録その他の資料を収集・整理・保存の実施			実施				→
生涯学習の場として資料・情報を提供			実施				→
児童書及び子ども読書活動推進に係る図書の充実			実施				→
学校支援事業による学校図書室との連携			実施				→
指 標 名		単位	H29目標値	H30目標値	R元目標値	R2目標値	R3目標値
活動指標	年間購入冊数	冊	6,900	6,900	6,900	6,900	6,900
成果指標	年間貸出冊数	冊	317,000	317,000	317,000	317,000	317,000

実施状況及び評価(CHECK)

令和2年度の事業実施状況	①図書、記録その他の資料を収集・整理・保存の実施については、計画どおり資料を購入し、提供することができた。 ②生涯学習の場としての資料・情報提供については、学びの場として新刊図書情報 提供や一般教養事業の開催により実施することができた。 ③児童及び子ども読書活動推進に係る図書については、出版されている絵本や(児童)小説は可能な限り購入することとし、図書の充実に努めた。 ④学校支援事業による学校図書館との連携については、図書館司書が講師を務める学校司書研修を2回(5日)実施した。
--------------	--

目標の達成状況  ※評価は下記の「評価基準」により記載	活動指標	指標名	年間購入冊数						
			単位	H29	H30	R元	R2	R3	評価
		目標値	冊	6,900	6,900	6,900	6,900	6,900	B
		実績	冊	6,761	6,738	6,634	6,284		
		達成率	%	98.0	97.7	96.1	91.0		
	指標名	年間貸出冊数							
	成果指標		単位	H29	H30	R元	R2	R3	評価
		目標値	冊	317,000	317,000	317,000	317,000	317,000	C
		実績	冊	280,433	290,726	258,645	216,994		
		達成率	%	88.5	91.7	81.6	68.4		
指標名		年間貸出冊数							

<b>【評価基準】</b> 達成率が100%以上 ……A 達成率が80%以上100%未満 ……B 達成率が60%以上80%未満 ……C 達成率が40%以上60%未満 ……D 達成率が40%未満 ……E 事業を実施できなかった ……F	総合評価
	C

取組の成果及び評価の理由	図書の年間購入冊数及び年間の貸出冊数いずれも目標値に達していない、また新型コロナウイルス感染拡大防止のための休館期間もあった。このことから、更なる読書推進が必要と考え評価を「C」とした。 なお、学校司書研修では図書館の基本的実務や、読み聞かせ実技研修などにより、学校司書のスキルアップ及び学校図書館の環境整備、運営向上につながることができた。
--------------	--

学識経験者からの意見	<b>【有見正敏氏】</b> 感染拡大防止のために休館期間があり、年間貸出冊数が目標値に達しないのはやむを得ないことですが、購入冊数については、図書の充実に向けて目標値に達してほしいと思います。学校支援事業については、子どもが本に親しむことができるようどうすればいいのか、学校と連携し、具体的な事例が示せるようお願いいたします。  <b>【鍵頼信氏】</b> コロナ禍で取組が思うようにできなかったことで、大変苦労されたと思います。問題を解くためには読解力が必要で、私も大学で教員を目指す大学生に、読解力の大切さを伝えていきます。国語だけでなく、数学、社会、理科などのテストなどの問題を解くためには読解力、つまり国語の力が重要と教えています。そのためにも、児童生徒に本をたくさん読んでもらうことが必要で、学力向上にもつながっていくと思います。児童生徒、市民に最も本を身近に感じてもらう。歩いて行って簡単に借りられるなど、本に触れやすい環境を作っていただきたい。
------------	--

	<p>【木村あけみ氏】          コロナ禍の影響で、図書館に足を運べなくなったり、実際に本に触るのを嫌がったり影響が出てきたと思います。それに対して、これまでにないような取組を考えなければならない現実に、いろいろ工夫されてきたと思います。その中で児童生徒に本をもっと親しんでもらおうと工夫されていますが、最近リモートでの読み聞かせや、紙芝居など、コロナ禍によって新たなサービスもあります。民間企業や、コーディネーターなどを活用し、いろいろな意見を取り入れ検討する機会が必要であると思います。</p>						
課題・改善 (ACTION)							
事業を進める上での課題	<p>人口1人当たりの資料費は、令和元年度で県内平均155.10円に対し、87.97円となっている。さらに、雄勝分館が令和2年3月22日に復旧し、業務を開始したことから、資料費の増額についての検討が必要になっている。</p>						
今後の対応方針	<p>図書館の利用状況、市の財政状況及び人口規模等を勘案し検討していきたい。          また、子どもが身近な環境で本に親しむ機会が増えるよう、今後も学校支援事業は継続して取り組んでいく。</p>						
令和3年度の見込み	<p>新規 <u>継続</u> (拡充・縮小) 休止 廃止 期間満了による終了</p>						
事業費 (決算額)	年度	H29	H30	R元	R2	R3	
	金額 (千円)	12,000	12,000	12,000	12,000		